

○1番（佐怒賀康輔君） 皆さん、こんにちは、傍聴の皆様におかれましては、お暑い中足を運んでいただき、ありがとうございます。議席番号1番、佐怒賀と申します。議長より質問の許可を得ましたので、通告に基づき質問させていただきます。橋本町長におかれましては、柔軟な政策とスピード感のある決断に日々ご尽力をいただき、ここに深甚なる敬意を表します。

それでは、私の質問の1項目めに入らせていただきます。まず、未来塾の取組について質問です。放課後学習サービス未来塾ですが、境小学校では今年度から1年生から3年生を対象とした低学年向けの教室も新たに導入されました。既に多くの児童の皆さんが参加をされ、好評とのこと、大変喜ばしく思います。未来塾の受講料や教材費など費用負担を町が担っている点、これは経済的な理由で参加できない児童をつくらないという教育の底上げに大きく寄与しており、非常に素晴らしい取組だと感じております。そこで本件についてご質問させていただきます。現状の参加人数、そして今後の未来塾の展開について、カリキュラムの拡充やほかの小学校への拡大など具体的な計画があれば教えてください。

次に、2項目め、子供たちの体験事業についてです。今年の夏も小中学生を対象とした多くの体験事業を実施いただきました。友好交流都市である小山町の主催した富士山富士登山合宿、小中学生海外派遣事業では姉妹都市ホノルルとの交換留学、また境町リーダーシップ研修では友好交流のある沖縄県の国頭村での合宿と、子供たちにとって本当に貴重な体験になったことと思います。私も今回、境町としては初となる富士登山合宿に引率という形で参加をさせていただきました。森戸小学校3年生のときに遠足で筑波山に登らせていただきまして、それ以来の富士登山ということでしたので、果たして本当に上れるのか、無事に生きて帰ってこれるのかという非常に不安の残るままに参加をさせていただいたのですが、中学生の皆さんのパワフルな姿に感化されて、どうにか無事に登頂してることができました。私にとってもそうですが、子供たちにとっても本当に一生の思い出になったことと思います。同様に、沖縄やハワイへの学習体験をした子供たちもかけがえのない体験をされたことと聞いております。そこで今回の質問となります。

今後もこのような素晴らしいプログラムはぜひ継続していただきたいのですが、実際に今回参加した皆様からの意見や感想はどうだったのかということと、今後事業についての予定はどうなっているのか。新たなプログラムの企画等について何かご検討されているのか、お伺いさせてください。

最後に、3項目め、公共交通機関となるオンデマンドバスと自動運転バスについてご質問いたします。こちらは町政報告の中でも触れていただいておりますが、改めてこの場でご質問させていただきます。

まず1点目として、オンデマンドバスについて質問です。現在境地区、長田地区を中心に運行している自動運転バス。カバーし切れないエリアに対してオンデマンドバスという新たな交通手段を導入する予定と伺っております。こちらは特に私の在住地域である森戸地区でも非常に注目をされておりまして、高齢者の方を中心に、「早く利用したい」、「タクシーを使うと高いけれども、割安で町内

に行けるのであれば本当にありがたい」、あとは、「免許返納後も出かけられるようになったら非常にうれしい」と、そのような期待の声が多く寄せられております。

そこで、このオンデマンドバスという新たな事業についてご質問いたします。事前に全員協議会等で予約方法ですとか、そういったところに少しお話は聞かせていただいていたのですが、そういったルールですとかオンデマンドバスの運行エリア、どの範囲を想定しているのか、また料金設定としてはどのようなものになるのか、具体的にいつ頃からの運行を予定しているのか、ご回答を賜りたく存じます。

次に、2点目、自動運転バスについてです。自動運転バスの運行開始から間もなく4年がたとうとしておりますが、運行開始から現在に至るまで数え切れないほどのメディア出演を果たし、他市町村からも非常に多くの視察、問い合わせが続いていることと存じます。少し前には国民的アニメ、サザエさんのオープニングに自動運転バスが出演したというのも大きな話題になっておりました。このように、今では自動運転バス、境町のランドマーク的な存在になっていると存じます。さらに、2024年にはエストニア社製の新たな車両ミカの導入に加え、既存のフランス社製自動運転バスのアルマ台数追加など順調に拡充が進んでいると認識しております。

そこで今回の質問となりますが、自動運転バスの現在の利用状況、また今後市民の利便性向上のため便数の増加や新たな運行ルートの開設も検討されているかと思いますが、そちらについてご答弁をお願いいたします。

以上をもちまして私の1回目の質問とさせていただきます。ご答弁のほどよろしくをお願いいたします。

○議長（倉持 功君） 最初に、未来塾の取組についての質問に対する答弁を求めます。

教育長。

〔教育長 栗原恵子君登壇〕

○教育長（栗原恵子君） 佐怒賀議員の1項目め、未来塾の取組についての今年度から始まった小学校低学年向けの未来塾の取組状況についてとのご質問にお答えいたします。

まず、これまでの状況ですが、さかいっ子未来塾事業については、地域の教育支援体制等構築事業費補助金及び放課後子ども教室推進事業費補助金、こちらを活用し、平成28年度より町内7つの小中学校で開催しており、昨年度までは小学校において4から6年生を対象として週2回、内訳といたしましては1日が自主学習、もう一日が英語活動ということで実施しております。そして、中学校においては週1回自主学習という形で行っております。令和5年度の実績といたしましては、申込み数が269名、延べ5,400名が活動しております。

また、今までの取組に加え、今年度より新たな取組といたしまして、試行的に境小学校において1から3年生の低学年を対象として、学習塾講師にご協力をいただき、各学年ごとに学習支援を実施しております。

今年度の実績、現在の取組状況についてご説明いたします。境小学校において低学年1から3年生にさかいっ子未来塾の募集を行ったところ、1年生で33名、2年生で33名、3年生で23名、合計89名の申込みがあり、7月末までで延べ457名の児童が参加いたしました。内容といたしましては、学習支援員の塾講師による教材を使用しての個々の進度、理解度に応じた学習や宿題のサポートを行っております。保護者からは、「学習習慣がつき、大変助かっています」、「子供が未来塾に参加し、楽しいと言っています」などの感想がございました。

9月以降ですが、児童の実態をさらによく捉え、よりよい学習方法を選択しながら、もっと活動日を増やすなど拡充を図るために、まず広報紙を活用して学習塾の講師を募集したいと考えております。そして、新たな取組といたしましては、学生が働く体験として、高校生の活用なども視野に入れて人材確保に努めてまいりたいと考えております。

また、次年度におきましては、児童の様子や保護者からのアンケート、学習支援員である塾講師からの聞き取りなどから、支援の仕方の見直し、そして進め方を再度検討して、よりよいものにするようしっかりと取り組んでいきます。来年度も実態に即した活動で誰一人取り残さない学習支援を推進してまいりたいと考えておりますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

○議長（倉持 功君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

佐怒賀康輔君。

○1番（佐怒賀康輔君） ご答弁ありがとうございました。今教育長のほうからもありましたが、誰一人取り残さないということで、学習塾がある種できる子の成績を伸ばしていくというものに対して、取りこぼさないというところを主としてというか、学習習慣をつけるといったところで活動されているということで、高校生導入等も含めて非常にすばらしい試みだと思っておりますので、今後もより充実した状態を進めていただければと思います。ありがとうございます。

○議長（倉持 功君） これで未来塾の取組についての質問を終わります。

次に、子供たちの体験事業についての質問に対する答弁を求めます。

教育長。

〔教育長 栗原恵子君登壇〕

○教育長（栗原恵子君） 佐怒賀議員の2項目め、子供たちの体験事業についての、今年度もハワイの海外派遣事業、リーダーシップ研修in沖縄事業、富士登山学習が実施され好評であったが、来年度以降の予定についてとのご質問にお答えいたします。

まず、各事業の現状についてご説明申し上げます。小中学生ホノルル派遣事業につきましては、子供たちのさらなる英語力の向上と、異文化に触れることによる国際感覚を養うことを目的に、中学2年、3年生15名を対象に、令和5年度に初めて派遣事業を実施いたしました。また、今年度はノエラニ小学校と姉妹校締結をしている境小学校の5、6年生の児童10名と、アリアマヌ中学校と姉妹校締結をしている町内の中学生10名を派遣し、実施いたしました。派遣事業では、それぞれの姉妹校での

訪問やホストファミリーとの交流を通して、ハワイの文化や風習など異文化に接する貴重な日常生活の体験で英語の知識や理解を深めることができ、さらなる英語力の向上につながったものと考えております。参加児童からは、「現地で実際に使われている単語やフレーズを学ぶことができたので、今後は自分も実際にそれらの言葉を使ってコミュニケーションを図っていきたい」、「ホストファミリーが優しくて、とても楽しかった。また会いに行きたい」などの感想がございました。

次に、中学校リーダーシップ育成研修事業につきましては、自然豊かな沖縄県国頭村の道の駅ゆいゆい国頭と道の駅さかいの友好交流協定締結を機に、青少年育成の一環として、子供たちが様々な体験を通して沖縄の歴史や文化を肌で感じ、積極的にコミュニケーションを図り、リーダーシップを身につけることを目的として平成30年から実施しております。今年度までに4回実施し、町内の中学校から82名の生徒が参加いたしました。令和5年度からは道の駅ゆいゆい国頭において境町の特産品の販売体験も経験し、地元境町の魅力を改めて学ぶよい機会となっております。今年度はさらに旧海軍司令部壕見学やサンゴ礁の移植体験、パイナップル収穫体験など様々な体験を加えたことで、非日常の経験を通して自分の生活を見詰め、個々が自信を持つきっかけにつながったものと考えております。参加した生徒からは、「自然や文化など国頭村についていろいろ知ることができました。特に生きているヤンバルクイナを観察できたことが一番心に残りました」、また、「境町の特産物の販売で積極的に行動し、コミュニケーションを図りながら品物を販売できたことが最も印象に残っています。これらの活動を通して、参加したメンバーとの絆も深まりました」、また、「サンゴ礁の移植体験を通して国頭村の中学生と交流ができて楽しかった」、「パイナップル農園での収穫体験が楽しかったです」、また、「パイナップルが甘くておいしかった」、「参加させていただき、ありがとうございました」などの感想がございました。

なお、この事業は一般社団法人境青年会議所にご協力いただき、染谷議員もおいでいただいております。町と協賛という形で実施させていただいております。

次に、静岡県小山町の姉妹町と富士登山交流事業につきましては、令和5年9月19日に当町と友好都市協定を締結した静岡県小山町の姉妹町等富士登山交流事業にお声をかけていただき、中学生11名が参加させていただきました。この事業では、小山町の中学生と姉妹都市等になっている全国の6市町の中学生が参加し、世界文化遺産である富士登山をするもので、参加者同士の将来にわたる絆づくりを目的に実施されました。参加した生徒は、苦しいながらもお互い励まし合い登頂できた達成感を実感し、無事に参加してまいりました。参加した生徒からは、「友だちと励ましながら富士山登ることができてよかった」、「この登山に参加して、三芳町に友だちができてうれしかった」などの感想がありました。参加に当たっては、引率として佐怒賀康輔議員、そして一般社団法人境青年会議所の方々にもご同行いただき、子供たちに寄り添ってサポートしていただきました。

これら小中学生ホノルル派遣事業、中学生リーダーシップ育成研修事業、姉妹町等富士登山交流事業のいずれの事業も参加希望者は多数でございまして、選考による参加となりましたが、町が子供た

ちの参加費用を全額助成し、参加者は経済的な負担を気にすることなく参加することができております。

今後の考え方についてでございますが、今後につきましても、子供たちの体験活動は非常に好評であり、将来を担う子供たちにとっても有意義で価値のある事業であるため、引き続き継続してまいりたいと考えております。

また、現在大手服飾メーカーの協力をいただき、機能性やデザイン性を考慮し、改修中の軽井沢の保養所利用につきましても、スポーツ合宿やスキー合宿、現在さしま少年自然の家で開催しているイングリッシュキャンプ、そんないろいろな事業につきまして新たな体験の拠点として活用できるよう、施設周辺の環境等を調査し、子供たちの新たな体験活動を提供できるよう検討してまいりたいと考えておりますので、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

○議長（倉持 功君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

佐怒賀康輔君。

○1番（佐怒賀康輔君） ご答弁ありがとうございます。質問ではないのですが、その軽井沢のほうも新たに来年度なのか、その先なのかちょっとあれなのですが、入ってくるということで、やっぱり選考、ある程度仕方ない部分ではあるかと思うのですが、より多くの子供たちに参加枠がご用意できればなというところはやはりあるかなと思いますので、引き続きよろしくお願いいたします。

○議長（倉持 功君） 町長、橋本正裕君。

○町長（橋本正裕君） それでは、佐怒賀議員さんのご要望に少しお答えをさせていただきます。

先ほど1項目めで取り上げていただいた講師の拡充という未来塾の取組も、当初できれば週に3回やりたいと思っていたのですが、まだ1回しかできていないと。やはり課題は、塾講師の確保が課題であるというところで、今時給がちょっと安いのではないかなという数字、ボランティア的にやっていたというところで、この間教育委員会とも協議をしまして、時給を上げた上で募集をして、ならば週に2回は最低入れていく。そして、週に3回目の3回目は我々のALTを活用した英語塾ということで、これを週3回続けると子供たちの学力も上がっていくのではないかとというところで、このシステムが境小学校で構築できれば、各ほかの小学校にも横展開をしていきたいというふうに思っていますので、今まだその課題とか問題の精査中でありまして、もうしばらくお待ちをしていただきたいと思います。

さらに、先ほどの子供たちの体験事業について、来年度以降の予定についてということでもありますけれども、今回、この間も中学生の英語教育ランキング、さいたま市が英検3級を持っている同等のランキングというもので全国5年連続1位みたいな、そんな話が出ておりました。そのランキングを見ると、政令市と、それと県しか出ないものですから、それとみなして出ているものですから、あれ、うちの町の中学3年生の英検3級取得率52%というのは高いはずなのだけれどもと思って、やはり今

後その実数……さいたま市は実数ではないのです。英検3級を持っている人が88%ではなくて、88%相当いるというような見立てなのです。なので、我々はここを実数で、子供たち、今小学6年生、英検5級を持っている子供たちが全体の75%まで来ていますので、その子供たちが順調にいけば75%英検3級を取れるというところまで来ていますので、これに加えて、1対1のやはりスピーキングの部分が日本は弱い。さいたま市にしても我々にしても、スピーキングの部分が非常に弱い。1対1のところ弱いものですから、今年度、来年度になると思いますけれども、オンラインも通した、タブレットも全員に配付をしてありますので、1対1で英会話ができる、そんな関係も構築していくことによって、今のリスニング、それから解答に加えて今度はスピーキングというところで、これが上がってくると多分日本全国どこにもないような英語教育になるだろうというふうに思っていますので、こちらもしっかりやっていきたいというふうに思っているところであります。

また、先ほどの人数のところ、今回木村議員さん、岩崎議員さんも一緒に行っていて、アリアマヌ中学校、さらにはノエラニ小学校に行っていましたけれども、10名、10名。町政報告でも話したとおり、アリアマヌ中学校は、日本に行く事業に、15人の事業に100人の応募があると。その中で15人選んで来ていると。課題はやっぱりホストファミリーだろうという話をさせていただきました。

もう一つ、やっぱり保護者の皆さんからあったのは、やっぱり今は上から、僕らが選ぶのではなくて、英語の先生、それから校長先生、それとALTの先生が総合して上から10人選ぶわけです。なので、やっぱり35人とか申込みがあった中で、英検をやっていない子供たちもいたりするのです。英検を取得をしていない小学生ですね。そういう子は、でもしゃべれないのに行くというやる気はあるわけです。やる気がある子供たちも何とか組んでくれというような話はいただいておりますので、今年、来年と、境町町制施行70周年でありますので、70周年になぞらえて、できれば今、今回10人、10人でしたけれども、木村議員さんからもあったとおり、ほかの森戸小、猿島小、静小、長田小も1人ずつでも入れてくれないかとか、姉妹小学校ではないけれども。そういったことも検討しながらやっていければというふうに思っていますが、ただ、やはり先ほど言ったように、向こうで、では20人受け入れられますかと。ホストファミリーがですね。そこが課題にはなりますので、この間もちょっとその辺話をさせていただいたら、20人ぐらいだったら受け入れられるかなんていう話もしていましたので、どのぐらいの人数、規模になるかはその部分と。

それと、もう一つは、今回も企業に協賛をいただいて、子供たち何人かの旅費に充当していますけれども、そういったものも、こういう事業に使っていますよ、皆さんの企業版のふるさと納税でこういったことに使っていますよ、こういう使い道ですから、ぜひやってくれないですか、1人大体50万かかりますと。1人分でも50万、では2人分100万円やってくれないかとか、そんなことはできると思いますので、今年も4社協力いただきましたけれども、そういった形で、ふるさと納税に頼るのではなくて、安定財源の中からしっかりと回すような、そんなことをしていかないと意味がないというふうには思っていますので、今後しっかりそういったことがやればなということと、今もホストファ

ミリーの家に滞在して、そこから中学校へ通ったり、ホストファミリーの家に滞在して、そこから小学校へ通っているわけですね。そうすると、ハワイの歴史とか、そういったところは全く学ぶ時間がなかったりしますので、そういう部分も、1日ホテル泊を増やしたりして子供たちにハワイの歴史を知ってもらおうとか、そういったこともやっていく必要があるのかなというふうには思っていますので、ここも議員の皆様方と相談しながら進めていければなというふうには思っています。

今回行ったお子さんの中に、京都から引っ越してきて、オハナタウンに引っ越してきて、今回申し込んで選ばれましたと。この事業のために引っ越してきましたと言って、行けたということは非常にいいことだったのかなと思いますし、今後ともそういった形で、引っ越してきた子も含め、地域のもともとの境町にいる子も含め、しっかりとグローバル人材を育てていければいいというふうに我々は思っていますので、来年度の拡充等に向けては皆さんと相談しながら、どういう方向が一番いいかということやっていきたいというふうに思っていますので、よろしくお願ひしたいと思っています。

○議長（倉持 功君） 答弁に対し、質問はございますか。

これで子供たちの体験授業についての質問を終わります。

次に、オンデマンドバス及び自動運転バスについての質問に対する答弁を求めます。

企画部長。

○企画部長（佐野直也君） それでは、佐怒賀議員の3項目め、オンデマンドバス及び自動運転バスについての1点目、オンデマンド交通が運行予定だが、その現状についてとのご質問にお答えをさせていただきます。

まず、オンデマンドバスの現状についてでございますけれども、町では交通空白地域における移動の課題、具体的には高齢者等については買物や通院など、子育て世代については主に子供たちの部活動や塾などへの送迎等を解決するため、令和5年3月に連携協定を締結した東京大学モビリティ・イノベーション連携研究機構の須田義大教授からご紹介をいただきました埼玉県北本市の事例を参考に、ワゴン車を3台活用したオンデマンドバスの運行を実施することといたしました。令和5年度には国土交通省の交付金を活用しワゴン車3台の購入、配車システムを導入するなど運営体制を構築したほか、本年1月及び2月には議会、町関係団体及び地元公共交通事業者などへの事業説明や意見交換を実施してきたところでございます。その後、茨城県全域の公共交通を所管する国土交通省関東運輸局水戸運輸支局や、タクシー、バスを運行し一部事業が競合する地元公共交通事業者との調整及び合意形成に時間を要しておりましたが、今般両者からの合意が得られたことから、来週の月曜日、9月9日に議会、町内団体及び国、県の関係機関、地元公共交通事業者を委員とする境町公共交通活性化協議会を開催し、議会及び町民の皆様へ事業内容をお知らせした後、今回は実証実験として早急に事業を開始してまいりたいというふうに考えております。

次に、オンデマンドバスの運行方法等に関しまして概要をご説明申し上げます。まず、実証実験期間のため運賃を無料としまして、利用できる方は境地区以外の公共交通空白地域に居住する町民の方

としまして、利用者などの自宅等へ配車した後、行き先は病院や金融機関、役場などの公的機関、スーパーなどの一部商業施設とする方向で調整をしております。また、地元公共交通事業者の要望などを踏まえ、長井戸、上小橋、塚崎地区の方で路線バスのバス停がご自宅から半径300メートル圏内にある場合は行き先を公的機関のみとさせていただき方向で協議会に提案させていただき予定しております。運行日、運行時間につきましても、事業者の要望を踏まえ、月曜、水曜、金曜、土曜、日曜の8時30分から午後5時30分を予定しております。その他詳細につきましては、利用方法を説明するチラシを作成し、皆さんに配布したいと考えております。

なお、運行経費に関しましては、配車にAIシステムを活用しておりますことから、既に採択されております内閣府のデジタル田園都市国家構想交付金を活用してまいりたいと考えております。

今後議会や町民の皆様、地元公共交通事業者等のご意見もお伺いしながら、利便性の高いオンデマンドバスの運行に努めてまいりたいと考えておりますので、ご理解のほどよろしくお願いを申し上げます。

次に、2点目、自動運転バスの運行状況についてとのご質問にお答えをさせていただきます。まず、自動運転バスの運行状況についてご説明を申し上げます。自動運転バスの運行につきましては、高齢者が免許を返納しやすくなるようなきめの細かい移動手段、バス、タクシー運転手の高齢化が進む中、持続可能な交通網の充実を図り、「誰もが生活の足に困らないまち」を実現するため、令和2年1月に国内最多の実証実験数を誇るボードリー株式会社、当時はSBドライブ株式会社と申しておりましたが、と、世界で最も走行実績があるフランス、ナビア社の製造するアルマの輸入総代理店である株式会社マクニカと連携協定を締結し、令和2年11月に全国の自治体で初めて、町中心部を通る公道で3台の車両を活用した定常運行を開始したところでございます。

令和3年2月には、役場、病院、郵便局、銀行などのバス停を設置しまして、8月には境町高速バスターミナルと道の駅さかいを結ぶ路線の運行を開始いたしました。

さらに、令和5年5月にはボードリー株式会社と、エストニアのオーブテック社の製造するミカを導入する覚書を締結し、令和5年12月から令和6年5月にかけて公道での実証実験を行ってまいりました。現在はアルマ5台、ミカ3台の計8台での運行体制となっており、特に大きな事故もなく、安全に定常運行は継続して行われております。

利用者につきましても着実に増加しており、令和6年7月26日にはこれまでの延べ利用者数が3万人を超え、8月31日時点で3万1,120人となっております。

また、自動運転バスの試乗や自動運転バス運行監視センターの視察に関しましても、国土交通省などの中央省庁、自治体、民間企業、海外などから8月末日時点での受入れ件数は392件、受入れ数も2,633名となっております。

こうした境町の取組は全国的に横展開をされておまして、現在北海道上士幌町など8自治体等において自動運転バスの定常運行がされておりますが、今後さらに8自治体においても定常運行が開始

される見通しとボードリーから伺っております。

今後の運行に関しましては、運行会社のボードリー株式会社及び株式会社セネックと連携をしながら、便数を現行の18便から70便程度へ増便したり、夜間走行につきましても実施してまいりたいと考えております。また、パークホテルさかい行きや御老公の湯行きの便を増やすなどルートの拡大を図り、さらなる利便性の向上に努めてまいりますとともに、レベル4運行に向けた取組を新たに行うべく、議会の皆様にご相談しながら早期に実施してまいりたいと考えておりますので、ご理解のほどよろしくお願いを申し上げます。

以上でございます。

○議長（倉持 功君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

佐怒賀康輔君。

○1番（佐怒賀康輔君） ご答弁ありがとうございました。便数の増加と、ルートも新しくご検討いただいているということで、非常にありがたいなと思っております。

ちょっとご興味というか、これはボードリーに聞けというお話になってしまうかもしれないですけども、深夜便というのは実際どういった時間帯で、何か予定というか、されているのかなという。

〔「今は夜間をやっています」と言う者あり〕

○1番（佐怒賀康輔君） 夜間便という形ですか。暗くなってからという形です。承知しました。では、大丈夫です。ありがとうございます。

これもこの後周知で分かることなのかなと思うのですがけれども、オンデマンドって、例えば公共交通機関とかスーパーとおっしゃっていて、帰りも時間でお送りいただけるのですねというところと、例えば町内の友だちの〇〇さんちに行きたいみたいな話になったときというのはどういうふうになるのかというのをちょっとお伺いしたいです。

○議長（倉持 功君） 町長、橋本正裕君。

○町長（橋本正裕君） それでは、佐怒賀議員さんのご質問にお答えをします。

ここに、先ほどの答弁で、境町の運行事業者、いわばタクシー会社ですね、が入っていますよね。その方たちのご理解をいただけるのがここと。向こうから、せめぎ合っていて、我々は全部やりたいのだけれども、せめぎ合ってせめぎ合って、この公共交通機関を目的としないだとか、それから300メートル以内はとか、それは我々の思いではなくて、まず、だからとにかく最初は、とにかくはこの事業を始めることから始めようということで、タクシー会社さんが邪魔しているとは言わないですけれども、タクシー会社さんとともに共存するためには、タクシー会社さんの意見も聞きながらやっているのが今の現状であります。それで昨年の3月から9月まで延びてしまったというところですが、今月9月末にはチラシを配って、始まりますよということで始まりますので、まずは使っていただいて、その中でどういうふうに改善していくとか、こういうのがもっといいよねとか、そういった形になっていけばなという事業の一つでございます。

さらには、先ほど言った、行ったところから、またその公共機関から帰れるのかと。これはもちろん帰る仕組みになっておりますので、こちらはやってみてということになりますので、よろしくお願いいたします。

また、自動運転についても頻度は、やはり皆さんに、行くのはいいのだけれども、帰りまでの間が。スーパーまで行って、帰り何分に出してしまうから、なかなかちょっと、2時間どこかでつぶさなければとか、1時間つぶさなければとか、そういうことがありましたので、今の便数から70便に増やすということで昨日ボードリーからも提案を受けたところでありますので、今後便数も増え、利便性が高まるのではないかなというのと同時に、ボードリーも今全国に16市町村以上に広がる取組になりますので、今後はいろいろなメーカー、今はフランス製のナビア社のアルマ、それとエストニア製のミカと入っておりますけれども、今逆に境町でそういうテストをしたいという海外メーカー、さらには国産メーカーも令和27年ぐらいには持てきたいということで、境町を提案したいということで、ボードリーからもいいですかというような話も来ておりますので、そういったものも議会の皆さんと相談しながらやっていくことによって、自動運転、さらにはドローンなどを活用した、自治体としてはトップランナーでいけるのではないかなというふうに思っておりますので、しっかりと、でも、そうはいっても地域住民の足、それから生活が一番でありますので、地域住民の皆さんが、ああ、ちょっと便利になったよねと言えるような公共交通網を目指してしっかり頑張っていきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○議長（倉持 功君） 答弁に対し、質問はございますか。

佐怒賀康輔君。

○1番（佐怒賀康輔君） 町長、ご答弁ありがとうございました。さっきの質問の未来塾と体験事業がお子さんたちへの行政施策である一方で、今のような公共交通機関というのは高齢者の方の生活をカバーするという行政施策かと存じておりますので、今後も年齢問わず、広く多くの町民が快適に持続的な生活が送れるように、今後も現在のような行政運営に期待しております。ありがとうございました。

○議長（倉持 功君） これで佐怒賀康輔君の一般質問を終わります。